

A 5 ミネラルを中心にしたお菓しの摂取状況

○安永祐子、草野幸子*、木村光孝**

日清医療食品㈱、* 西南女短大食物栄養科、
**九歯大・小児歯

小学校の校外給食実習で、学童の特にカルシウム・鉄・ビタミンを含有したおやつをどのくらい摂取しているか、アンケートを行った。おやつに関しては、ほとんどの家庭で市販のおやつを与えている傾向にある。また、果物を与える家庭が多く、ビタミンを上手に利用することが望ましいと考えられる。学童期は、成長発育の時期にあり、おやつは間食と考えず、食事に相当することを考えておかなければならない。栄養素を調整したおやつに対する認識は、マスコミなどによる情報の流入によって95%と高くなっている。摂取状況については、学年別にみても80%以上は家庭で栄養素を加えたおやつを与えている結果が出ている。栄養素をみると、カルシウムが59%と高く、ビタミン・鉄・その他ミネラル・タンパク質の順となっている。学童期は骨や歯をつくる時期であり、カルシウムを加えたお菓子が市販され、具体的には、ビスケット・キャラメルなどがあり、卵殻カルシウム、ミルクカルシウムなどの形で栄養補強している。しかし、香料、乳化剤・安定剤などの食品添加物が加えられていることにも注目しなければならない。さらに飲料水については、栄養補強したおやつと一緒にジュースを与える家庭も多く、子供の健康にとって考える点がある。栄養素を加えたおやつについては、食物添加物のあるお菓子を食べるよりはよいが栄養素の表示がないために今後考えなければならない点である。

A 6 乳幼児を持つ母親の口腔保健意識調査

○吉良直子 長光美保 福山由香理

熊本市立西保健所

乳幼児のう蝕予防は、生涯歯科保健の原点です。しかし、当所のう蝕罹患率は1歳6か月児13.5%(H6)で、これは全国の6.4%(H5)の約2倍で、3歳児の罹患率は全国平均より2%程低いものの、初発が早いという問題を抱えています。私達は乳歯う蝕を生活習慣、母親のDF歯数、社会的環境等から調査していますが、今回は母親の口腔保健意識に影響する因子の調査を試みたので報告します。これらの調査は、乳歯う蝕を母親の育児不安を含む母子関係の不調和から生じた疾患と捉えて、楽しい育児を支援するための資料とする事を目的としています。

対象と方法：保育所での育児学級参加者(232名)を対象とし、自記式の質問紙法としました。

結果と考察：受講者の妊婦歯科健診時の罹患率は45.7%、育児に負担を感じている群・夫の育児非協力群はう蝕の多い傾向にある等の結果を得ました。

「虫歯がありますね」というと「すみません」と反射的に答える母親の育児の応援をしていきたいと思ひます。